

第5期事業報告書

(2021年7月1日～2022年6月30日)

モリダス

1. 概要

第5期も、「緑と水の森林ファンド」の助成金を得ながら、安全で楽しい里山保全・森林づくりを指導するリーダー養成を中心に事業を実施した。step1 から始まる一連の研修サイクルを2回まわしたことにより、研修プログラムの改善と体系化は進んだと思われる。伐木を想定した安全管理研修とフォローアップ、手道具による玉切り・枝払い研修は、今期に新たに組み込んだプログラムであったが、一定のニーズがあることを確認できた。一方、第4期（2021年4月1日～6月30日）とあわせてstep1の受講者は27名を数えたが、step3まで継続された方は2名にとどまった。受講者のニーズを把握して、研修の内容・開催方法について改善する余地があるだろう。

関東地方にナラ枯れ被害が急拡大している現状を踏まえて、オンライン連続学習会「ナラ枯れ被害の現在と伐採更新の可能性」を開催したところ、100名に迫る参加申込みがあった。ナラ枯れは、今後の里山保全・森林づくりに再考を迫るものなので、落葉広葉樹の管理のあり方についてはモリダスとして意見をまとめておく必要があるだろう。

財務的には、助成事業に採択されたことにより、研修参加者用の消耗品や外部講師に対する謝金等に充当できた。しかし、スタッフ人件費を賄うことはできず、事業を安定的に運営するための資金調達が課題となっている。活動団体への講師派遣事業を展開していくことが求められる。

2. 事業内容

1) 人材育成事業「安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成講座」

(令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成)

(1) 森づくりレベルアップ研修 step1～手道具（ノコ・ナタ・カマ・ハサミ）の扱い方

日時：2021年10月23日（土）・10月24日（日）9:30～15:30

場所：川井緑地

講師：松井一郎（モリダス/森づくりフォーラム）+助手1名

参加者：11名

内容：安全で楽しく価値のある森づくり活動を進めていく第1段階として、「手道具を正しく扱う基礎的なスキル」を2日間で習得するために、森づくり活動で用いるノコギリ、ナタ、カマ、剪定バサミの使い方を中心に学んだ。筆記・実技の審査をおこない、11名全員合格した。

(2) 森づくりレベルアップ研修 step2a～ロープワークと牽引システム

日時：2021年12月11日（土）・2022年1月10日（月祝）・1月22日（日）9:30～16:00

場所：いはる里山交流センター [1日目]、川井緑地 [2・3日目]

講師：島村雅英（モリダス/NORA）、高澤愛（モリダス/Woodsman Workshop）+助手5名

参加者：15名 [12/11]、12名 [1/10]、10名 [1/22]

内容：step1を合格した人を対象に、伐木に必要なロープワークの基本、チームワークで作るロープ牽引システムについて学ぶ研修（1・2日目）と、実技・筆記の審査（3日目）をおこなっ

た。10名が審査にのぞみ、7名が合格、3名が条件付き合格（筆記1名、実技2名）した。

(3) 森づくりレベルアップ研修 step2b～折れ曲り線と蝶番（受け口・追い口）づくり

日時：2022年2月26日（土）・3月5日（土）・3月12日（土）9:30～16:00

場所：川井緑地

講師：高澤愛（モリダス/Woodsman Workshop）

受講者：6名

内容：step2aを合格した人を対象に、折れ曲り線と蝶番（受け口・追い口）の作り方について学び、伐倒目標に対して垂直に折れ曲がり線をつくり、蝶番が均一に残せるようになるまで実習を重ねた。3日目に筆記・実技による審査をおこない、6名のうち5名が合格（3名は条件付き）、1名は不合格であった。

(4) 伐木を想定した安全管理研修とフォローアップ

日時：2022年5月1日（土）・6月11日（土）9:00～12:00

場所：川井緑地

講師：高澤愛（モリダス/Woodsman Workshop）

受講者：7名 [5/1]、5名 [6/11]

内容：伐木を始める前に身に降りかかる危険を予測するための11項目を、現場の状況を踏まえて実践した。特に、伐倒対象木と隣接木の観察、伐倒目標や退避場所の決め方については、時間をかけて対話形式で学んだ。

(5) 森づくりレベルアップ研修 step3～手道具とロープで安全に木を切り倒す

日時：2022年5月29日（日）、6月26日（日）9:00～16:00

場所：川井緑地

講師：塚本秀貴（樹木・環境ネットワーク協会）

受講者：7名 [5/29]、4名 [6/26]

内容：step1、2a、2bを合格した人を対象に、手道具とロープで安全に伐木するためのスキルを身に付けるために、半日の座学と1日半の実技による研修をおこなった。

(6) 手道具による玉切り・枝払い（引張と圧縮）

日時：2021年11月7日（日）9:30～16:00

場所：川井緑地

講師：高澤愛（モリダス/Woodsman Workshop）

受講者：8名

内容：step1を合格した人を対象に、伐木をめざさなくても必要なスキルである玉切り・枝払いについて、特に引張と圧縮、支え木について学ぶ研修を開催した。

(7) 野外体験活動における安全管理とコミュニケーション研修

日時：2022年1月29日（土）・1月30日（日）9:30～16:00

場所：多摩市立グリーンライブセンター

講師：志賀壮史（グリーンシティ福岡）

参加者：12名

内容：1日目がおもにコミュニケーション、2日目はおもに安全管理をテーマとした。コロナ対策のために少人数での話し合いの時間を制限し、講師からの話題提供、個人ワーク、全体での話し合いが中心の構成になった。

2) 人材育成に関する普及啓発・情報発信

(1) 連続学習会「ナラ枯れ被害の現在と伐採更新の可能性」

（令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成）

日時：2022年6月14日（火）・21日（火）19:30～21:00

場所：オンライン（Zoom）

参加申込者：93名

内容：

6/14（火）＊第1夜「2020年代のナラ枯れ被害の実態を知る」

話題提供① 松元信乃（東京都公園協会）

「都立公園60か所におけるナラ枯れ調査の3年間の動向」（録画）

話題提供② 舟木匡志さん（NPO birth）

「ナラ枯れ被害の現状と今後の樹林管理—狭山丘陵の都立公園を事例にして」

6/21（火）＊第2夜「持続可能な里山管理のあり方を考える」

話題提供③ 長久豊さん（都立桜ヶ丘公園雑木林ボランティア）

「皆伐更新による里山管理—都立桜ヶ丘公園こならの丘の事例」

コメント 土屋俊幸さん（東京農工大学名誉教授）

この機会に寄付を呼びかけたところ、27名から寄付があった。

(2) インターネット上の情報発信

公式ウェブサイト (<https://morida.net>) から、おもにイベント情報を発信したほか、facebookやNORAの広報媒体も生かして情報を発信した。

(3) 『手ノコで木を伐る』の販売

おもに研修時に受講者向けに販売している。研修とセットになった内容なので、積極的には販売しなかった。

(4) オンライン教材の制作・ウェブ公開

2021年7月以降、伐倒に必要なロープワークと牽引システムの紹介動画をYouTubeにアップし、研修の教材としても活用した。これまでの視聴回数は2万回を超えた。

また、吉武美保子（NORA、新治里山「わ」を広げる会）が案内役を務めるシリーズ「身近な里山で森づくり！誰でもわかる、森のヒミツ」として、「森の階層構造」「コナラトクヌギ」の2本を制作し、YouTubeにアップした。視聴回数は、それぞれ約700回、約2,000回である。

さらに、『ミルマップ・ワークショップ！～みんなで描く森づくりプラン』の利用を促す動画と、皆伐更新とナラ枯れに関する動画を制作した。

3) 行政・他団体との情報交換・活動支援

毎月、環境 NPO 運営スタッフ談話会を開催する中で、安全管理やスキルアップに関する情報を交換した。

4) 理事会開催

日程：①2021年7月2日（金）、②8月16日（月）、③9月26日（日）、④11月8日（月）、⑤2022年1月21日（金）、⑥3月11日（金） 計6回

場所：オンライン（Zoom）

以上